

政府・行政刷新会議

四閣僚が原子力・エネについて議論

提言型政策仕分け始まる

FBR開発も俎上に

行政刷新会議の提言型政策仕分けが二十日から二十三日まで都内で...



原子力関係研究開発に「もんじゅ」を用いた高速増殖炉研究開発の存続は是非を含め、従来の体制・計画を抜本的に見直し、国民が納得できる結論を出すべきとした。

TFR計画は、国際交渉を進めて更なる日本の負担削減の努力を続けていくよう提言した。

この日最後の「原子力エネルギー等予算のあり方等」では、枝野幸男・経済産業相、中川正春・文部科学相、細野豪志・原発事故担当相、蓮舫・行政刷新担当相の四人が...

フランス、検査の一般視察も

保安院 ストレストテストで国際セミナー

原子力安全・保安院は十七日、ストレストテストに関する国際セミナーを開催し、各国・国際機関における取組について報告を受け、意見交換を行った。

トレストテストと、福島事故から一週間後に始まった国内安全レビューの二つの取組が進められている状況を述べた。

安全・防災対策を国に要望 島根県知事 溝口善兵衛・島根県知事は十六日、経済産業省を訪れ、松下忠洋副大臣と会談を行い、原子力発電所の安全・防災対策の強化などを要望した。

「ニューおおくま」目指し

大熊 復興構想標榜の町長再選

東京電力・福島第一原子力発電所の1号機4号機が立地している福島県・大熊町の町長選挙の投票が二十日行われ、現職の渡辺利綱氏(64)が、前町議で新人の木幡仁氏(60)を破り、再選を果たした。

同町では十月に渡辺町長の元で、「大熊町を取り戻そう。みんなで帰ろう」とを合い言葉にした復興構想「ニューおおくま」を、みんなで戻って復興を、ニューおおくまの実現を目指して取りまとめている。

指し復興する考えであり、場合によっては二十年を要することも覚悟し、同構想を元に来年三月までに復興計画の方向性を取りまとめる。

経済産業省の総合資源エネルギー調査会・基本問題委員会(委員長三村明夫・新日本製鉄会長)は十六日、国際エネルギー機関(IEA)のフアン・デル・フーフン事務局長を招き、同機関がこのほど取りまとめた「世界エネルギー予測2011」について説明を受け、意見交換を行った。

暖化ガス排出への影響を説き、「減原発依存」の場合にとるべき方策を委員らに問いつけた。フーフン氏はまず、福島事故以降、原子力を巡る状況は、「不確実性」にさらされた」とすると、CO2排出量、エネルギー効率、石油輸入額といった重要な指標が、「憂うべき方向性」に傾き始めていると警鐘を鳴らした。

高浜4号が利用率首位 世界の原発トップ10 英字誌の原子力専門誌「ニュークリア・エンジニアリング・インターナショナル」十一月号によると、関西電力高浜4号機が、世界の原子力発電所三百九十七基中、過去一年間(六月末時点)の設備利用率で一位となった。

「仕分け国会版」原子力審議 衆議院 衆議院決算行政監視委員会(行政監視に関する小委員会(新藤義孝委員長・自由民主党・無所属の会))、いわゆる「事業仕分け国会版」が十六日より開始、二日目の十七日には、原子力関連について審議が行われた。

「誰もが確実に帰町できる環境」を 福島・富岡町 進む復興ビジョンの策定 福島県 富岡町の「富岡町復興ビジョン」策定委員会(委員長三瓶長三・無所属の会)は、いよいよ「事業仕分け国会版」が十六日より開始、二日目の十七日には、原子力関連について審議が行われた。